



ZENFUREN

全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

附属だより 第116号

全附連ホームページ <http://www.zenfuren.org/>

全附P連最新情報 <https://www.facebook.com/全国国立大学附属学校PTA連合会-535185576863562/>

~子どもたちとこの国の未来のために~

第116号
LINEUP

令和2年度
全附P連PTA
研修会全国大会開催

1~3面

学校再開後、
コロナ禍で
附属学校園は
こう動いた

緊急特集

4~6面

全附P連
絵画コンクール2020
届け、私たちの思い
~新型コロナウイルスに負けるな~

発表 優秀作品

8~9面

新時代のパイオニア
としての附属
北海道教育大学副学長
玉井 康之 様

私にとっての
附属
国立大学附属学校振興議員
連盟 会長 衆議院議員
森 英介 様

ポストコロナで
期待される附属
学校の教育
国立大学附属学校全国同窓会
会長 衆議院議員
塩谷 立 様

7、10面

わが校の
給食自慢

11面

令和2年度 全附P連 PTA研修会全国大会

10月3日(土) リモート開催

当日同時閲覧数 **1300名以上** 総再生回数 **7000回以上**
多くのご参加ありがとうございました。



10月3日(土)、全附P連の令和2年度『全附P連PTA研修会全国大会』が開催されました。例年全国から附属学校園のPTA関係者が東京に集まり、2日間にわたって開催していましたが、今年はコロナウイルス感染拡大の影響でリモートによる開催となり、多くの皆様がそれぞれの地元にながらYouTube上で視聴するというスタイルに切り替えて開催しました。

参加者は当日の視聴は1300名以上、また後日動画公開中の再生回数は7000回に及ぶなど大きな反響を呼び、その関心の高さが証明されるとともにコロナ禍のこの時代における行事開催のモデルケースとしても大きな意味を持つ開催となりました。

基調講演では脳科学で有名な東北大学教授 川島隆太先生により「脳科学から見た学力と生活習慣の因果関係」と題した講演があり、質疑応答ではたくさんの方の質問に一つ一つ丁寧にお答えいただきました。この講演で参加者は子育てについての多くの新たな知見を得ることができました。

なお、今回の大会では、開会式典に萩生田文部科学大臣からビデオメッセージをいただき、その中で附属学校園への期待がしっかりと語られていました。あらためて、附属学校園は広く日本の公教育を支える大きな役割を担っていることを認識する機会となりました。また、大会プログラムの中では、新たに作成した「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」の説明、障がいを知り手助けを実践していく「あいさポーター運動」の紹介、そして各地の学校園での先進的な取り組みが紹介されるなど、附属の在り方や可能性を皆で共有する有意義な大会となりました。

本年度も子どもたちの学びを支援するため、コロナ禍の今こそ子どもたちが感じる素直な気持ちを絵画に表現してもらいたいと絵画コンクールを募集しました。1440名の応募中、入賞作品の100作品をスライドショーとして紹介しました。そして「教師の日」をテーマとした作文・絵作文コンクールの優秀賞作品を朗読にてご紹介しました。

ご挨拶



一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会
会長 **神余 智夫**
(香川大学教育学部附属坂出幼小中学校PTA)

コロナ禍の厳しい状況が今もなお続いています。私たちはこのような状況下でもできることを精いっぱいやっていくことを共有し、10月にリモート型で全国大会を開催しました。想像以上の反響があり、現在活動がままならないと感じている多くのPTA関係者の後押しにもなったのではないかと考えています。特に学校休業中の取り組み事例では、附属学校が地域に貢献する活動を実践していることが発信できたと思っています。ご視聴いただいた多くの皆様や、ご協力いただいた皆様にあらためて感謝申し上げます。

今回の附属だよりには、学校再開後の取組に関する緊急特集を掲載しました。近い将来、コロナ禍で附属学校が果たした役割を検証されると考えています。その際、全ての附属学校が社会から高い評価を得て、さらなる活躍をすることが地域の教育に寄与していくことだと考えます。私たちPTAは今後も学校と共に活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。



全国国立大学附属学校連盟
理事長 **木村 勝彦**

国立大学附属学校の歴史は、長いもので100年を優に超え、明治期に学校制度を整えた我が国にとって教員養成の中心的存在でした。それ以来、二度の大戦、そして様々な災害を乗り越えながら、時々に歴史的な事業、実践を残してきました。現在でもその存在価値は変わることなく、先進的教育研究校として、また公立学校を研究・研修両面でリードする存在として、さらには教員養成の中心としての意味を持ち続けています。しかし、今、教育界はコロナ渦の中で未曾有の社会的危機に見舞われています。ある意味「複雑で予測困難」な社会に我々は直面しており、教育界もその対応に苦慮しています。各附属学校はこうした中でも各地域の公立学校と連携し、さらに大学の附属であることから持ち得る資源を活かし、積極的に教育をリードしていくことが求められています。子どもたちの"いのち"を守りながら、今後もこうした状況に積極的に対処する必要があります。全国の附属学校のPTAの皆様からはこれまでも様々な形でご支援・ご協力をいただきました。附属学校にとってPTAの存在は、大変重要なものであります。今後とも附属学校が日本の教育のために課された役割を遂行するにあたり、是非ご協力をお願いしたいと思います。

令和2年度 全附P連 PTA研修会全国大会 10月3日(土) リモート開催

文部科学省教員 養成企画室より 行政説明

齋藤 潔・文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長より国立大学附属学校をめぐる諸情勢、特に新型コロナウイルスの学校現場への影響、それを踏まえた文部科学省の取り組みをお話いただきました。

新型コロナウイルス対策に伴う支援策としては、感染症対策のためのマスク等購入支援事業、特別支援学校スクールバス感染症対策支援事業、修学旅行のキャンセル料等支援事業、学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業に合わせ七億五千万円、GIGAスクール構想の実現に向け、一人一台端末の整備、GIGAスクールサポーターの配置、通信機器整備支援などに、総額四十三億八千万円を計上し、これらの支援策を迅速に実施していくことで国立大学附属学校における学びの保障を支援していくとお話いただきました。

アフターコロナの新しい学校教育を実現するには、国立大学附属学校が我が国の学校全体を牽引する先導的な役割を担うよう期待するとお話しされました。



お話をいただいた
文科省の齋藤室長

基調講演

脳トレでおなじみの 東北大学 川島隆太先生が登壇！！

東北大学加齢医学研究所所長の川島隆太先生より、「子どもたちの生活習慣が子どもたちの学力や脳の働きに与える影響について、具体例を示してご講演いただきました。」
今まで謎だった、子どもたちが夜更かしをする事によって学力が極端に下がり、何をしても疲れやすくなる事の原因が、最近の医学研究により、「トコドリア」の働きが睡眠不足の為に下がってしまう事だったと究明されたそうです。

脳科学から見た学力と生活習慣の因果関係

子どもたちにとって、睡眠時間は6〜8時間必要で、睡眠時間を削って夜遅くまで受験勉強をしても、学力を上げる事につながらず、その事を脳科学者は「人生の無駄遣い」とまで言っているという衝撃的なお話をしていただきました。

又、朝食習慣の重要性や学力との因果関係や、読書習慣の重要性についても統計データを示してわかりやすく説明していただきました。

皆が気になるスマートフォンと学力との関係については「スマホの恐怖」と題し、スマホを使う事で顕著にテストの点数が下がる事、特に悪い影響が出やすい通信系アプリの事など、スマホにより子どもたちの脳発達や学力等に色々な影響が出ている事を示していただきました。

特にスマートフォンについては、今子どもたちがICTを使っている事が大前提となっている中、バランスの良い使い方を考えていく必要があるのではないか、そして、スマホを使用することによって起きている

事は、心理学的にはスイッチング（一つのことに集中できない）という現象である事も示していただきました。子どもたちの生活習慣は私達「親の生活習慣の鏡」です。
最後に講演を聞いて危機感を持った人は「当たり前前の基本的な生活習慣を家族全員で持つこと」を意識して、ご家族の心身の健康と子どもたちの未来を守って欲しいと結ばれました。

プロフィール

川島隆太（かわしまりゅうた）



昭和34年生れ。千葉県千葉市出身。東北大学加齢医学研究所 所長。東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター センター長。昭和60年東北大学医学部卒業、平成元年東北大学大学院医学研究科修士、スウェーデン王国カロリンスカ研究所客員研究員、東北大学加齢医学研究所助手、同講師、東北大学未来科学技術共同研究センター教授を経て平成18年より東北大学加齢医学研究所教授。平成26年より東北大学加齢医学研究所所長。平成29年より東北大学学際重点研究センター長兼務。主な受賞として、平成20年「情報通信月間」総務大臣表彰、平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」、平成21年度井上春成賞。平成25年河北文化賞。査読付き英文学術論文400編以上、著書に「スマホが学力を破壊する」（集英社新書）「さらば脳ブーム」（新潮新書）など、300冊以上を出版。

あいサポート運動のご紹介

「あいサポート運動」とは、障がいのある方へ必要な「配慮や手助け」について正しく理解し「地域共生社会」をみんなと一緒に作っていく運動です。全附P連は「あいサポーター研修」を国立大学附属学校園の児童・生徒・保護者等を対象に実施し、研修を通じて新たな気付きを得ていただいております。

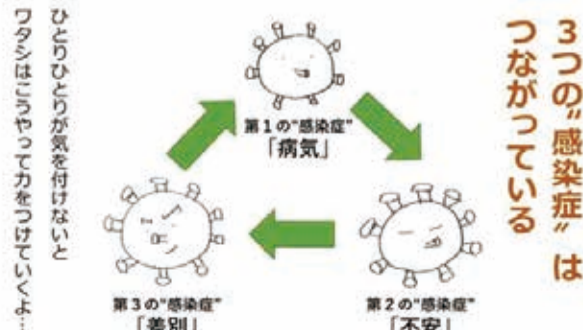
附属のだれもが「あいサポーター」に
ハンドブックを用いた研修で90分後には... 「あいサポーター」に
「あい（I=自ら）」の「あい（愛）」で誰もが暮らしやすい「やさしい街」をつくりませんか？

新型コロナウイルス感染症等 予防ガイドラインの説明

新型コロナウイルス感染症の流行により制限・縮小を余儀なくされているPTA活動について今後の活動に向けた指針が示されました。状況の収束が見えない中、子どもたちのための活動を継続していくには以前の形態にこだわらずリモート等で事業を行うことの必要性を改めて考える機会となりました。

また、家庭では我が子の心理的ストレスに向き合いつつ、感染者や医療従事者の方々等への正しい理解を進めていくことが重要であることを再認識いたしました。

尚、作成したガイドラインは全附連ホームページからご覧いただけます。



附属学校休業中の取り組みとこれからの改革

オンライン授業の研究支援事業

北海道教育大学附属釧路中学校

学校の目標として、教科の本質に迫る授業、生徒が知的好奇心を持って主体的に学ぶことを掲げられています。それを実現するために、すでに対面授業においても、情報端末を文房具のように用いる授業が日常化してきています。そのために、コロナ禍においても、オンライン授業を身構えることなく実践し、その良さを生かすことができています。また、その経験を積極的に他校にも共有されており、地域の教員研修支援センターとしての附属学校の役割を果たされています。



緊急事態下で園の使命を果たすために

福井大学教育学部附属幼稚園

「子どもの姿を核に学び続ける」を核として、「保育の見える化」を重視した保育改革を推進されてきました。平成29年からfacebookの活用、平成30年からは園と保護者のコミュニケーションを支援するために、情報通信技術を活用したアプリを導入されました。保護者の幼児理解の推進、教職員の資質向上、地域への発信、家族間で子どもの姿の共有、連絡や情報把握の活用にも役立ちました。さらに、YouTube限定配信とZoomオンラインシステムの活用で、臨時休園中も園児たちが先生方のお顔をみることができ、園児たちの心の健康を支えることができました。そこでは、領域ごとの柱で作成した園児向けの動画や新年度の園生活のイメージを配信、そして副園長、園長、教員の自己紹介等も同様に配信されました。

新入園児のご家族からは臨時休園中も孤立せず、大学と幼稚園に親しみと所属意識を持つことができ、安心して過ごすことができましたと好評の声をいただきました。



オンライン授業

千葉大学教育学部附属小学校

新しく赴任された先生と、新三年生の子どもたちが、初対面しコミュニケーションをはじめる大切な日「学級開き」です。しかし、休校中では「学級開き」も「授業」も教室で行うことができません、オンラインで行われました。

オンラインで「朝の会」を毎日続けることで、先生と子どもたち、そして子どもたちの間で、活発にコミュニケーションができるようになりました。

その中にある「子どもたちの意欲」を学びに繋げられるよう、先生は不思議に思ったら何でも投稿してみようと、子どもたちに呼びかけます。そして、その疑問をもっと深掘りしてい



るような返信で、学びの意味を教えられています。先生ががオンライン形式で、子どもたちとコミュニケーションし、各人の学びを支えるように挑戦された姿勢は、有益な参考事例となります。

夢をかなえる支援者ミーティング

熊本大学教育学部附属特別支援学校

熊本大学教育学部附属特別支援学校からは、生徒の自立と社会参加を願い、学校・保護者・関係機関が一体となって実践する取組みについてご報告していただきました。

取組として、生徒の「夢・希望」の実現に向け、学校・家庭・関係機関が組織する「支援者ミーティング」を開催し、個別の教育支援計画を作成することで、きめ細やかな支援を実践されています。これを基に家庭で行った実践（全61事例）を収録したうち「一行日記から自分を振り返る力」「ひとりで行けるモン！」「バスや電車を乗り継いでプチ人旅」など「ごほん・おかずを作ってみよう」の3つの取組み事例をご紹介します。

学校・保護者・関係機関の支援により、生徒の確かな成長が感じられる取組みでした。



全附P連PTA研修会全国大会ディスカッション

パネラー

- 齋藤 潔氏 (文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員養成企画室長)
- 木村 勝彦氏 (全国国立大学附属学校連盟 理事長)
- 北川 和也氏 (公益社団法人日本PTA全国協議会 参与)
- 田中 一晃 (国立教員養成大学・学部・大学院、附属学校の改革に関する有識者会議 委員、全附連事務局長)
- 神余 智夫 (一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会 会長)

コーディネーター

- 呉本 啓郎 (一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会 直前会長)

学校休業中の事例報告を受けて、パネルディスカッションが開催され、様々な立場からの意見が語られました。

学校は、手探り状態の中ぎりぎりのところで成果を上げているという点や、保護者からは先生方のご尽力に敬意を表しながらももっとできることもあるという意見もありました。そうした議論の中で、現在のコロナ禍における附属学校園の先進性が語られ、あわせて全国の附属学校園への期待が共有されました。



全国大会を終えて

個人的に第2回よりPTA役員として、また第7回より運営スタッフとして関わらせていただいた全国大会も今年で11回目を迎え、10月3日に無事終わることができました。ご視聴頂いたPTA役員の皆様、並びに厳しいスケジュールの中、動画の撮影・提供をいただきました全国の附属学園の皆様、また来賓の皆様、誠にありがとうございました。今年の全国大会は、例年とは違った形とならざるを得ませんでした。今後の全国大会の在り方を考えるいい機会となったのではないかと思います。私のように地方都市在住の役員の方の中には、東京で全国大会の研修を受けるということにある意味楽しみ(?)を感じていた方もいらっしゃると思います。また、東京には行かれないけど研修は受けてみたい!という方もいらっしゃると思います。そんな皆様が全員受けられる研修大会を作れるように引き継いで参りたいと思います。全附P連の活動に今後ともご理解ご協力を宜しくお願い致します。

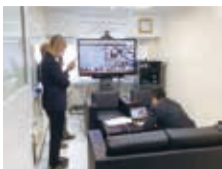
令和2年度 全附P連PTA研修会全国大会
副実行委員長 谷田部秀男

作文・絵作文コンクール

全附P連では2年前から作文・絵作文コンクールを開催しています。これは、先生に対する感謝の気持ちや思い出を作文や絵作文で伝えようというものです。全国大会では昨年度のコンクールで会長賞を受賞した鹿児島大学教育学部附属中学校の石川 澄伶さんの作文『私の羅針盤』が朗読されました。先生の勧めで続けた日記のお陰で、自分と素直に向き合えるようになったと綴られており、忙しくても返事を書き続けてくれた先生への感謝の気持ちが溢れる作品でした。

緊急特集

コロナ禍の学校再開後、国立大学附属学校園の取り組み



月1回の土曜オンライン授業を、地域の教員研修事業として常時公開

提供を目的として継続

地域に根ざす教員研修支援事業と新たなイベント開催

の火種になると確信しています。



地域町内会の理解で野外特設ステージにて実施したサンセットフェスin附中

北海道教育大学附属釧路中学校では、6月からの学校再開以降、感染防止に向けた様々な工夫や改善策を...

北海道教育大学附属釧路中学校

今年度は、毎年10月に実施している総合的な学習の時間の成果発表会を、三密を防ぐために校内の15会場をICT機器をつないで、オンライン上で行いました。

コロナ禍における開かれた学校づくり

し、オンライン上でも授業の臨場感が伝わるように配慮しました。



複数のカメラやタブレットの活用による授業のライブ配信

秋田大学教育文化学部附属中学校

学校行事は、子どもたちの成長した姿や輝く個性などを保護者に確認していただく貴重な機会です。

北海道教育大学附属釧路小学校

本校は総務委員会、事業委員会、安全委員会、広報委員会の4つの委員会組織のもとPTA活動を行っています。

本校が今年度これまでに進めてきたPTA活動の一旦を紹介...



本校HPはこちらから

山梨大学附属幼稚園

新型コロナウイルス感染予防と園の運営の両立に悩みつつ、試行錯誤し取り組んできた本園の試みをご紹介します。

〇感染症対策に配慮した運動会「行事については、ねらいを改めて問い直したうえで内容を検討、実施しています。



〇クリーンルームなどの密回避対策「遊戯室を「クリーンルーム」とし、遊び等には使用せず、...

コロナ禍における新たな取り組み

ともなく、昼食を楽しんでいます。〇ICTを活用したPTA活動「PTA総会をホームページ保護者用ページに資料掲載、メールにより協議、議決を行いました。



ポストコロナを見据えたPTA活動

「PTA安全委員会制作動画「元気で健康に過ごすための秘訣」」コロナ禍のみならず、平時においても重要な「健康」に関する動画



鳥取大学附属小学校

本校の学校行事の新しい考え方

これまで学校の行事は基本的に全員参加を前提とし、安全確保を第一に実施されてきた。感染者数が全国最少レベルの鳥取でも、今春以後これまで通りには実施できず、いくつかの行事を中止・延期した。しかし、中止となった場合、子どもたちにとっては唯一の体験の機会を逃す可能性もあり、教育の質的低下も懸念される。そこで感染予防対策がほぼ確立した夏休み明け以後、本校では行事の実施を前提として、あらゆる感染予防の対策と環境を検討・対応して授業参観や運動会を実施した。その結果、各行事のこれまでの課題も改善され、保護者の事後アンケートでは高い評価を得た。他方で、県外への宿泊行事の実施については、事前に実施した説明会では各家庭の状況を背景に不安の声も寄せられた。



これらの経験から今回の感染症に対する保護者の考え方が実に多様であり、また高齢の家族との同居や子どもへの既往症など各家庭で状況もさまざまであることが分かった。そこで本校では、これからの学校行事は必ずしも全員参加を前提とせず、必要な感染予防策を講じ、その条件で無理なく参加できる子ども・家庭に参加してもらおう方針を全家庭にお知らせした。給食でのアレルギー対応や、ケガ等により保護者の送迎を例外的に認めるのと同じ考え方である。このお知らせに対して、これまで保護者から異論は寄せられていない。

withコロナ期の学校行事の在り方

子ども用フェイスシールド開発への協力

鳥取大学の附属校園は、大学附属の特徴を活かし、学内のさまざまな人的・物的資源を相互に活用している。本校のキャリア教育と知財創造教育に協力して貰っている医学部教員からの依頼で、医療従事者用の使い捨てフェイスシールド「ORIGAMI」の子供用の試作品開発に協力した。その頃、本校でも英会話学習の際にマスク着用で口元が見えないことが課題であった。子どもたちは授業中に試作品を使用し、組み立て方、使い心地、耐久性などの課題をフィードバックし、商品化と授業の改善に貢献した。またその様子は地元テレビ、新聞でも紹介された。



名古屋大学教育学部附属中・高等学校

生徒を引率して海外で異文化を体験させる機会が、まったく途絶えてしまった。以前は、米国・リトアニア・モンゴル等で生徒たちは体験的に世界を学ぶことができた。「今年は残念だったね」で終わらせるわけにはいかない。そこでこれまでの取組を活かす形で「Active Learning in English (ALE) online」を開催した。ALEとは、名古屋大学の留学生が、自国の社会的課題について高校生に伝え、高校生目線での社会的課題解決に向けて議論をするプロジェクトである。もちろん使用言語は英語である。今回のALEには、13か国から17名の留学生が集まった。5日間で10回(各回2時間)、ALEが行われた。本校だけでなく、地域の高校にも参加を呼びかけ、本校以外に4校が参加した。



ALE

コロナ禍において、海外の人たちとの交流が途絶え、生の英語に触れる機会がなくなり、多くの学校が困っている中で取組であったため、40名もの高校生がALEに参加した。参加した高校生は様々なアクセントの英語に触れながら、毎回異なった国の現状について学び、小

ニュー・ノーマルな学校教育へ向かって

グループで自分たちの考えをお互いに交わすことができた。生徒たちは、自宅に居ながらALEに参加できるメリットもあった。毎年多くの人たちが賑わう光粒祭(学校祭)も中止になった高校生徒会執行部を中心に「名大附属Cultural week (MC Week)」が企画立案された。感染対策に最大の配慮をしながら、オンラインと対面を組合わせた多くの企画が授業後を中心に1週間間にわたって行われた。オンライン企画では、MC esポーツ、MCヨガ等、対面企画では、MCアート、MCテッド、MCヴォーカル、MCコレクション等が実施された。校内生徒のみの参加であったが、これまでの光粒祭とは、大きく異なったものとなった。中学生徒会も「映像作品発表会」に取り組んだ。T.P.O.を使って、クラス単位で科学実験や日常生活におけるさまざまな不思議についての作品等を10・15分の動画にまとめた。各学年が、それぞれ大教室に分かれて作品を鑑賞し、優秀賞やアイデア賞などの各賞も発表された。当たり前が当たり前でなくなった今、生徒たちの新しい発想と、生徒を信頼する教職員の一步を踏み出す勇気が「ニュー・ノーマルな学校教育を創る」ことにつながった。



MCWeek

熊本大学教育学部附属中学校

本校では5月の体育大会を10月に延期して開催する事にしました。まずは、大会の目的を再確認し、①生徒が練習し達成感を感じる②集団としての団結力を高める③体育の授業との関連性を強める④新型コロナウイルス感染症への対応ができるという四点を目標としました。また、個人競技は中止し、学級対抗競技や団対抗競技は実施すると方針を決め、生徒会も含めアイデアを募りました。学級対抗競技は、例年の「ムカデ競争、台風の目(五人組で1列になり途中の旗を回る競技)」をなくし、「バレーボールを何回パスでつなげるか」という競技や「サッカーのパス回しをどれだけ速くできるか」といった競技を開発。



バレーボールを使った新競技の様子

団対抗の競技も、例年の「綱引き、長縄跳び、棒ひき(団ごと)に竹の棒を取り合う競技」をなくし、団ごとの音楽や太鼓を使った表現活動にしました。さらにこの競技の採点基準に「コロナ対策をしているか」という

岐阜大学教育学部附属小中学校

本校は今年度より義務教育学校としてスタートしましたが、当初の予定変更を余儀なくされ、Web会議システム等ネットの活用により何とか乗り越えてきました。その中で平常時においてもプラスに働くと思われる取組を5つ紹介します。

①自分自身の生き方をみつめる重要な領域として「どう生きる科」を新設。平常時以上に、外部講師など様々な方々と交流の機会が増え、これからの生き方に対する学びを深めている。

②不登校傾向の子供たちにも恩恵をもたらしている。特定の教科について家庭と接続し授業に取り組み始め、徐々に教科数が増え、やがて校内の別室に登校して授業を受けるまでになっており、学ぶ機会の保障につながっている。

③本校は全国的にも珍しく各学年に特別支援学級を併設。その特別支援学級印刷班に学長と局長がオンラインで名刺作



③学長と局長がオンラインで名刺作成を発注する特別支援学級における授業の様子

新しい形の体育大会をめざして

観点を入れ、生徒にディスプレイをとる工夫とか、大声を出さないで表現する工夫をすることを目指しました。以上のような改善により、練習の時点から密にならず取り組むことができ、生徒は連帯感や達成感を感じることもできました。そして何より、新しい形の体育大会を作りたいという気概が生徒に湧き上がりました。また、生徒の頑張りにより、体育の授業で学習する技能の向上もできたようです。大会当日は、スペースを十分にとって生徒席を割り振り、その分、入退場門を廃止し各テントから直接各競技に参加させました。また、参観者を三年生の保護者に限定、一、二年生の保護者には、Zoomによるライブ配信を四つのカメラから行いました。また、手洗いをスムーズに行うため給水タンクを八ヶ所設置したり、県内の工業高校の生徒が作成した自動手指消毒器を5台借用したりしました。今後の総合の時間で、この装置の作り方を学習し、隣接する小学校や幼稚園に寄贈する予定です。



団対抗の表現活動の様子

Webシステム等のネット活用でプラスに転じる!

成を発注する特別授業を実施。発注の際は、子どもたちが緊張を一つ一つも、もらった人が一番印象に残る名刺を作ろうと、動機付けとして有意義な時間となった。

④義務教育学校となり1000人規模に拡大し、三密を回避したオンライン運動会を企画。1・9年生までの約20名の異学年集団を活動単位として競技にのぞみ、競技者以外はオンラインで教室から応援。保護者も家庭等から活動の様子を参観し高評価を得た。

⑤PTA活動にも有効。総会資料を学校HPに掲載し書面決議、Web会議システムを活用した役員会や教養講座を企画・実施するなど、ネットを大いに活用。年度末にはWeb会議システムを活用した総会を企画し実施予定。

コロナ禍に対応していくことは大変なものではありますが、これまでの教育活動等の見直しをする機会にもなったと思います。特にネットを有効活用することで、平常時にもプラスとなるものは今後も継続していきたいと考えています。



⑤PTA活動、実行委員会の様子。100人規模の会議をWebシステムで実施。

緊急特集

コロナ禍の学校再開後、国立大学附属学校園の取り組み

感染症対策を徹底した修学旅行の実践事例等

香川大学教育学部附属坂出中学校

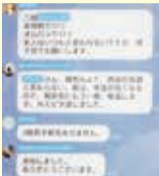
4月に予定していた修学旅行を延期し、屋久島・南九州方面への修学旅行を10月15日から3泊4日の日程で実施しました。しかし、その道のりは決して簡単なものではありませんでした。

生徒の成長を考えると、修学旅行のような大きな学校行事は欠かすことができません。しかし、どの家庭でも、希望と不安の両方の気持ちをもっていきます。リスクをなくすることはできませんが、保護者の方々の協力や生徒の主体的に取り組む力を生かしながら、可能な限りの感染予防対策を実践していきましました。

保護者の方々との協議は何度も行いました。全体では2回の説明会。学級代表の常任委員さんやPTA役員の方々との協議も重ねていき、様々な意見をいただきました。生徒が中心となって積極的に感染予防対策を実践できるように、生徒を代表するプロジェクトメンバーとの話し合いも行いました。そして、次のような「感染予防対策」と「体調不良者が出たときの対応」を一緒になって作成し、取り組んでいくことにしました。特に、1日3回以上の検温は、生徒と教員が協力し合って短時間でできるようにしました。さらに、より詳細な対応をまとめた細案も作成し、保護者の方々にも配布して具体的な想定を共有していきましました。



感染対策で仕切りを立てた食事会場



生徒の健康状態をタイムリーに情報共有

鳴門教育大学附属特別支援学校

本校では、中学部の修学旅行を9月16日(水)・17日(木)の2日間、徳島県内で実施しました。修学旅行では、日ごろは見られないような生徒の嬉しいような表情や生徒同士のやり取りが見られ、実現できたことに感謝の思いでいっぱいです。

「修学旅行を楽しみにしている」生徒、「このコロナ禍と言われる年であっても生徒には、可能な範囲で感動的な体験をしてほしい」と願う教員や保護者、それぞれの願いの実現を目指し、多くの学校と同様に、本校でも計画を見直し、教育的意義と感染症対策という二つの命題に挑みました。



クルージングを体験

何より大事なことは、生徒の健康と安全を守ることです。日々報道される国内外の感染状況に怯える毎日の中、考えうるあらゆる対策を講じました。その主な内容が次の11点です。①旅行先は、移動のリスクを回避し徳島県内に変更。②移動は、公

コロナ禍であっても感動的な体験をしてほしい

公共交通機関を避けて、自校のスクールバス利用に変更。③宿泊先は、修学旅行1日1組限定とするホテルに変更。④食事を含む活動時には個室の借用を追加。⑤食事会場の座席配置は、会議室方式に変更。⑥食事形態は、ビュッフェスタイルから個別のお弁当に変更。⑦入浴は、大浴場から部屋風呂に変更。⑧宿泊する部屋は、寝具の間隔を空けるために和室に変更。⑨滞在型・体験型の内容に変更。⑩夏ならではのマリンスポーツの体験に変更。⑪地域の良さを再発見に着目。もちろん、検温を含む健康チェックや教室等の換気、消毒、手洗い、マスクの着用等3密を回避した感染症対策に日々励ましました。学校の現状や取組は、こまめに配付文書や一斉メール、ホームページ等で発信し、保護者の理解や協力を得るよう努めました。こうした取り組みが児童生徒や保護者の安心につながり、願いの実現につながったと感じています。



浮き輪で間隔を空ける

保護者や生徒とともに乗り越える修学旅行

〈修学旅行における感染予防対策の概要〉
1 式の簡略化
・出発式や帰着式などを簡略又は省略するなどして、全員が1つの場所に集まる回数を減らす。
2 乗り物や施設見学時の予防
・バス、新幹線、高速艇などの乗車の際には、アルコールによる手指消毒とマスクの着用を行う。
・乗り物の座席を動かして対面にするのは禁止とする。
・バス、新幹線、高速艇などの乗り物や施設を見学する際は、マスクを着用する。
3 こまめな健康チェックと検温
・1日3回(朝、昼、夜)、健康チェックと検温を行う。
※2種類の体温計(非接触・接触)の使い分け
4 宿泊施設(食事会場)における予防
・食事前には手指消毒、食事は静かに食べる。また、食べ物や食器の取扱いを避け、どうしても対面になる場合は、仕切りを立てる。
・宿泊施設では、部屋の行き来をしない。
・使用したマスクは、部屋ごとに袋に入れて回収して、まとめて捨てる。
・買い物の時間を指定して、お土産売り場で密になるのを避ける。
・入浴で大浴場を使用する場合は時間差をつけ、人数を収容人数の半分以下とする。
〈体調不良者が出たときの基本的な対応〉
1 体調不良者の発見(37.5度以上の発熱や味覚・嗅覚異常など)
・保護者に連絡、しばらく別室などで様子を見て、必要な場合は病院へ(診察後、結果を保護者に連絡)
2 体調不良者の発見(37.5度以上の発熱や味覚・嗅覚異常あり)
・保護者(PCR検査受診の可否も確認)と保健所に連絡
・保健所の指示により病院を受診(医師の診断と必要に応じて保護者の許可があればPCR検査を受ける)
・結果を保護者に連絡(その後の対応は、保健所の指示に従う)

奈良女子大学附属中等教育学校

本校では、コロナ禍の授業を「学びのありかた」によって4期に分けて考えています。

1期「一斉臨時休校と郵送課題の実施」、2期「緊急事態宣言とオンライン学習の開始」、3期「時間割にもとづくオンライン学習の実施」、4期「分散登校から全員登校へ」となります。3期は、5月の「ゴールデンウィーク明けから、「G・S・U・I・T・E」を活用して、特別時間割にもとづくオンライン授業を行いました。その後、4期は、クラスの半数(20名)が登校し、半数は在宅での同時配信授業(G・Meet)を展開しました。このオンラインと対面の組み合わせによるハイブリッド授業は、3期の全員オンライン授業とは実際に取組んだ教員の意見聴取の結果から、全く別物と考えるべきだと提言しておきたいと思えます。対面の授業準備とオンラインの授業準備を同時に行うのは教員の負担が大きくなり



大阪教育大学附属池田中学校

9月1日から3日にかけて、例年より縮小した形で長崎方面への修学旅行を実施しました。コロナ禍に加えて台風9号接近の中、予定していたプログラムを変更しながらも、子どもたちは長崎の街を満喫していました。例年は駅コンコースで実施する出発式や解散式を新幹線内で行い、さらには帯同した医師によって、新型コロナウイルス感染症対策等を参加者全員に周知徹底しました。持ち物に関しても、感染予防の観点から、お茶の補給の必要のある水筒の持参を取りやめ、現地でペットボトルを配布する形式をとりました。また、宿舎での検温と手洗い、手指消毒の徹底、移動時の座席等の消毒の実施や、食事においても宿泊施設のご協力により、卓袱料理を



底、移動時の座席等の消毒の実施や、食事においても宿泊施設のご協力により、卓袱料理を

学校行事 with コロナ

今、学校は、授業の在り方や学校行事の企画運営等、新しい変革が求められています。このタイミングを捉えて、その時代に即した学校の在り方を見据えつつ、附属学校として地域のモデル校の役割を果たすべく、今後も力を尽くしてまいります。

コロナ禍の授業と修学旅行から学んだこと

北海道修学旅行を終えて、今後考えなければならぬことは、飛行機を使わない旅程の選定や、地域による保健所の対応の違いを考慮しておくことをあげておきたいと思えます。最後に、修学旅行は、日常を離れて普段体験できないことを体験するからこそ、自らを見つめ直す機会となるということを、生徒の成長から実感しました。



優 秀 賞



愛知教育幼 年長



愛知教育幼 年中



神戸幼 年長



埼玉幼 年長



鳴門教育幼 年長



愛媛幼 年長



愛媛幼 年長



愛知教育幼 年中



長崎小 1年



宮城教育小 1年



鳴門教育幼 年中



鳴門教育幼 年中



鳴門教育幼 年長



福岡教育福岡小 2年



山形小 6年



茨城小 2年



茨城小 4年



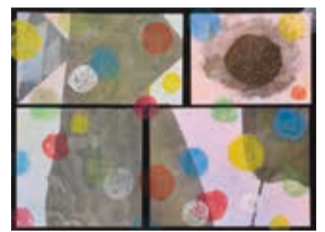
広島幼 年少



福岡教育福岡小 4年



大阪教育平野小 1年



お茶の水小 6年



お茶の水小 2年



愛知教育名古屋小 4年



愛知教育名古屋小 1年



愛知教育名古屋小 2年



金沢小 1年



新潟新潟小 2年



広島三原小 1年



香川高松小 3年



大阪教育池田小 1年



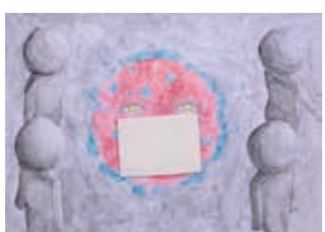
大阪教育平野小 4年



京都教育桃山小 6年



鳴門教育中 2年



広島三原中 3年



琉球小 1年



福岡教育福岡小 3年

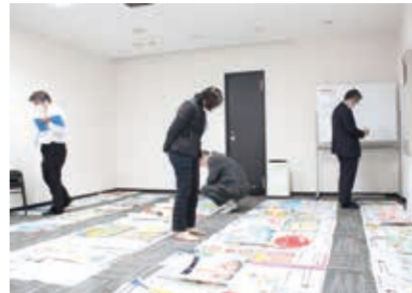


広島三原小 4年

恒例となっております絵画コンクールも今年はコロナ禍のために集合しての審査が難しいと判断。そして、ウェブを通しての応募と審査という新しい形で開催しました（最終審査のみ東京にて集合型で審査）。やり方は変われど、今年も1400作品を超える応募をいただきました。その中で選ばれた作品がこちらです。ご覧いただき、コロナ禍で子供たちが何を感じているのか感じ取っていただければと思います。

※学校名については略称とさせていただきます。

審査員
 齋藤 潔氏
 (文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員養成企画室長)
 神余 智夫
 (一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会 会長)



全 附 P 連
絵画コンクール2020
 「届け、私たちの思い」
 ～新型コロナウイルスに負けるな～
入賞作品

会長賞

山形小 1年
ありがとう

鹿児島小 6年
守ろう僕達の命

金沢幼 年長
ストップコロナ 負けないぞ!

茨城中 3年
変わらないもの

金沢小 4年
マスクの下で歯をくいしばる

信州特支 小1～4年
カラフルなしんかんせんによって

特別賞

鹿児島小 4年
明るい未来を光が導いた希望への開発

群馬特支 中学部1年
手洗い、マスクでよう!

福岡教育幼 年長
おひさまがパワーをくれるよ!

東京学芸大泉小 5年
地球の明るい道へ
～希望とファイトをみんなにつなげ～

茨城中 1年
感謝～そして未来へ～

大阪教育池田小 2年
消毒とマスクで世界を守れ

国立大学附属学校振興議員連盟 会長 衆議院議員 森 英介 様



私は、小学校から高校まで国立大学の附属にお世話になった。東京学芸大学附属世田谷小学校、中学校、そして、附属高校である。附属以外の学校を経験していないのにこういう事を言うのは如何かと思うが、このような教育環境で過ごせたことを自分としては実に幸運であったと感じている。

そもそもが師範学校の附属であるから、実験校的な性格を持っている。そのせいもあるのだろう、今、思い返してみても、意欲的な

私にとっての附属

同期生もいる。しかし、多くの友人と未だに交遊が続いている。ところで、私が附属に入学できたのには、一人の恩人がいる。おそらく今もそうだと思うが、附属小学校の入学試験ではクジが課せられていた。もちろん私は全然覚えていないことだが、私の入学試験の折には、当時附属小学校の4年に在籍していた私の年長のいとこが私のクジを引いてくれたそうである。それで、当ててくれた。いとこにして、かつ、一生頭の上らない先輩である。

それから幾星霜、私の息子が学齢に達したとき、是非我が子も母校に入りたいと思った。そして、入学試験に臨んで私がクジをひいたのだが、誠に遺憾なことに、外れてしまった。なんでも僕はお父さんの学校に行けないのと、年端も行かない息子に聞かれた時は胸が痛んだ。しかし、息子は、公立の小学校に行き、私立の中学、高校に進学し、私には縁の無かった様々な体験を経て、今やいつぱしのITエンジニアになっていく。何が辛いのかわからない。

気風が横溢していたような気がする。また、先生方も尊敬できる先生が多かった。

中でも私の心に残っているのは、小学校高学年の時の担任の金児功先生である。金児先生は、ご専門は算数だが、問題の解き方を生徒に教えるのではなく、生徒に解き方を考えさせるような指導方法を採られた。たとえば、円の面積を計算するのに、「半径×半径×3・14」などと型通りには教えない。自分の頭で面積を出す方法を考えてみなさいといったような指導をされた。方眼紙に円を描いてハサミで切って形を整えて、面積を出した同級生もいた。

この金児先生がどういいうわけか私の算数のセンスを褒めてくださった。私は、すっかり舞い上って、自分は絶対に理科系の人間だ

プロフィール

1967年3月	東京学芸大学附属高校卒業
1974年3月	東北大学工学部卒業
1974年4月	川崎重工業(株)入社
1984年7月	工学博士号(名古屋大学) 授与される
1990年2月	衆議院議員選挙初当選 (以降10期連続当選)
1994年7月	労働政務次官(1995年8月)
2003年9月	厚生労働副大臣(2004年9月)
2008年9月	法務大臣(2009年9月)
2013年1月	衆議院原子力問題調査特別委員会委員長(2014年9月)
2016年9月	衆議院憲法審査会会長 (2018年9月)
2020年10月	衆議院政治倫理審査会会長(現在)
2020年11月	自由民主党司法制度調査会会長 (現在)

寄稿

国立大学附属学校全国同窓会 会長 衆議院議員 塩谷 立 様



衆議院議員の塩谷立です。国立大学附属学校は、学附属ニユースの報道、取り上げ方、論調が各新聞により異なることを比べ、議論する授業がありました。その経験は、政治家となりメディア関係者とも多く接することになった今でも、様々な情報に接し、政策を実現する上で有益であり、また情報過多時代、フェイクニュースも含め様々な情報に子供たちも接する現代こそ必要な教育だと認識しています。

長年に亘り公教育の拠点校として、国の目指す教育政策の先駆者的役割を果たしてきました。しかしながら、教育の多様化と人口減少に伴い、その存続への危機感もある中、政治の立場からも附属学校を応援したいとの思いで、また附属学校出身の唯一の文部科学大臣経験者とのことで、私

ポストコロナで期待される 附属学校の教育

が昨年「国立大学附属学校全国同窓会」初代会長に就任させて頂き、国会にも附属学校出身者を中心とした「国立大学附属学校振興議員連盟」を発足いたしました。同窓会、議員連盟を通じて、全国各地の附属学校およびPTA活動の熱心な取り組みを拝見する中で、改めて、附属学校の公教育における重要な役割を認識するとともに、新しい時代にふさわしい附属学校の未来への展望を抱いています。

私自身は、昭和21年静岡大学附属幼稚園に入学し、以後11年間を附属学校で学びました。今でもよく覚えているのは、小学校低学年時代、工作に夢中になっていた私を、授

プロフィール

1956年	静岡大学教育学部附属幼稚園 卒園
1962年	静岡大学教育学部附属静岡小学校 卒業
1965年	静岡大学教育学部附属静岡中学校 卒業
1968年	静岡県立高等学校 卒業
1972年	米国アンバサダーカレッジ 卒業
1974年	慶應義塾大学 法学部 卒業
1990年	第39回衆議院総選挙において初当選 (現在9期)
2008年	内閣官房副長官
2008年	文部科学大臣
2017年	自民党選挙対策委員長
現在	自民党財務委員長
現在	農林・食料戦略調査会長
現在	人口知能未来社会経済戦略本部長



「わが校の給食自慢」特集



筑波大学附属視覚特別支援学校

毎年秋には秋刀魚の一尾付け給食を行います。視覚から全体を把握することが困難な子どもたちは、手で触って魚の構造を理解することから始め、学年が上がるごとに箸を使って魚を食べる方法を学んでいます。



ご飯(白米)・秋刀魚の塩焼き(一尾付)・炒り鶏・みそ汁(小松菜・玉ねぎ・卵)・抹茶プリン小豆ソース

宮城教育大学附属小学校

愛媛県愛南漁協の方が来仙し、4年生魚食授業実施の際に出している『愛媛と宮城のコラボ給食』です。今年はコロナの影響で実施できなかったのですが、みんなで再開を心待ちにしています。



鯛めし・牛乳・せんざんき(愛媛の郷土料理)・仙台雪菜の磯和え・仙台麩のみそ汁・花みかん

弘前大学教育学部附属特別支援学校

青森の食材を取り入れた給食です。米、野菜、果物、どれも豊かな青森の食材を活用しました。地域の食材に触れて、美味しく食べて笑顔になる給食を目指しています。



新米ご飯・牛乳・八戸鯖のみりん醤油焼き・付け合わせ(素揚げかぼちゃ)ほうれん草と菊のおろしりんご和え・せんべい汁

静岡大学教育学部附属浜松小学校

本校の大人気メニュー『ラザニア』です。パスタ生地ではなくギョウザの皮をミートソースに混ぜるのがポイントです。学級ごとに大きなオーブン皿で焼き上げ、お玉で配膳します。



パン・牛乳・ラザニア・キャベツのサラダ・オニオンスープ

横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校

『フェアトレード給食』として、フェアトレード食品のココナッツオイル、ココナッツシュガー、ごま、コシヨウを使い、定期的に提供しています。高学年の学習やSDGsにも繋がります。給食が教材となっています。



カレーライス・牛乳・みそドレサラダ・りんご

東京学芸大学附属特別支援学校

和食の日(11月24日)の給食です。2019年に行われた「饗宴の儀」で提供された食事の中から「たいのそぼろごはん」と「茶碗蒸し」を作り、子ども達からも好評でした。世界に誇れる「和食」おいしく食べて、受け継いでいきたいです。



たいのそぼろごはん・飲むヨーグルト・筑前煮・茶碗蒸し・すまし汁

京都教育大学附属京都小中学校

黒豆入り黒米ごはんは、京丹波地方の郷土料理です。黒米をまぜたうるち米を炊き、甘辛く煮た黒豆とその煮汁で炊いたごはんにやくをまぜたごはんは、給食自慢の料理のひとつです。



黒豆入り黒米ごはん・ごはん・牛乳・鶏の照り焼き・おひたし・のっぺい汁

福井大学教育学部附属特別支援学校

『八ツ島場所ドスコイ給食』はっけよい、のこったのこった!この給食は、学校行事で子どもたちが相撲体験をした日の献立です。給食でもおすもうさんの気分を味わってほしくて、おすまじに海苔で作ったまわしを締めました。



おすもうさんの塩むすび・牛乳・鶏のからあげ・野菜のあっさり漬け・アジのつみれ入りちゃんこ汁

岐阜大学教育学部附属小中学校

この給食は、家庭科部の生徒が考えた献立です。岐阜県の特産物(ニジマス、ほうれん草、小松菜、大根、ねぎ)をふんだんに使いました。川魚は、鵜飼の期間中はアユを使用し、季節を感じるようにしています。



米飯・牛乳・川魚の野菜あん・切り干し大根のごまごし・鶏つくね汁・みかん

山口大学教育学部附属光小学校・中学校

本校近隣の漁港ではハモが水揚げされ関西方面に出荷されます。規格外のために処分されてしまうハモの命を大切にしようとして、4年生が漁協の方の御協力のもと、総合的な学習の時間に考案した献立です。



麦ごはん・牛乳・光のハモハモごぼう・大根のみそ汁・みかん

奈良教育大学附属小学校

奈良の食材満載の献立。柿の葉ずしは子どもたちが楽しみにしている給食の一つです。大和まなは家庭科の実習でも扱う大和野菜。給食で奈良を感じて!と思いを込めています。



柿の葉寿司・牛乳・大和ポークのいり豆腐・大和まなの煮びたし・吉野葛いりうどん・明日香みかん

大阪教育大学附属池田小学校

中学生が考えた『小学生の食べる給食』のひとつをご紹介します。同じ敷地内の小中学生が交流することともに、中学生が小学生の給食を考案することで、自分の食事に向き合える機会を得ることが出来ます。



ごはん・牛乳・お好み焼き・ピーマンのじゃこ炒め・すまし汁

琉球大学教育学部附属小学校・中学校

沖縄の伝統行事として、「カジマヤー」という数え97歳を祝う風習があり、そのお祝いのメニューです。大人気の中身汁は、ゆでた豚の内臓を入れたすまし汁です。沖縄ならではのちんすこうもつけてみました。



黒米ごはん・牛乳・うじら豆腐・クーブイリチー・中身汁・ちんすこう

長崎大学教育学部附属小学校・附属特別支援学校

長崎名物「皿うどん」。皿うどんの麺「チャーメン」は、生麺を給食室で揚げています。チャーメンとあんは別配缶なので、チャーメンのパリパリした食感を楽しめる人気メニューです。



コッペパン・牛乳・皿うどん・春雨サラダ

鳴門教育大学附属小学校

七夕の献立です。全国トップレベルの漁獲量を誇る徳島県の「はも」を天ぷらにしました。そうめん汁には、特産品の半田そうめんが入っています。半田そうめんは、やや太めでコシが強いのが特徴です。



ご飯・牛乳・はもの天ぷら・ゆかりきゅうり・七夕そうめん汁・天の川ゼリー

